



**株式会社 ニチダイ**  
NICHIDAI CORPORATION  
本 社 TEL.(0774)62-3481(代)

**URL <http://www.nichidai.jp/>**

ニチダイへの理解を深めていただくために、  
ホームページをご活用ください。



トップページ  
当社の最新ニュースに  
アクセスできます。



株主・投資家の皆様へ  
最新の業績などのデータを  
掲載しています。



What's NICHIDAI  
当社の事業内容を動画などを  
使ってわかりやすく解説しています。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
基準日 期末 3月31日  
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話0120 094 777(フリーダイヤル)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

なお、株式関係のお手続き用紙のご請求は、以下の三菱UFJ信託銀行の  
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公 告 方 法 電子公告  
当社ホームページ(<http://www.nichidai.jp>)  
にて掲載  
単 元 株 式 数 100株

### 見通しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見  
通し及び計画に基づいた将来予測です。

これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれてお  
り、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。

ニチダイ 株主通信 Vol.9  
June 2006



# Insight and Information

## Contents

ニチダイグループが「他社の追随を許さない高い技術力」 をコアに、3つの事業を展開しています。……………	2
株主の皆さまへ……………	4
ニチダイアメリカの現状とビジョン……………	6
コーポレート・ガバナンス……………	7
決算ハイライト……………	8
各事業の実績(2006年3月期)……………	9
主要連結財務諸表……………	10
TOPICS……………	12
株主様アンケート結果……………	13
会社概要/株式情報……………	14

### 精密鍛造金型

削らず、熱を加えずに金属素材を複雑な最終形状  
の部品にする理想の加工法「ネットシェイプ」に使わ  
れる金型。自動車産業を中心に、精密さ、強度が求め  
られる部品生産工程で活躍しています。

当社ホームページ「What's NICHIDAI」にて動画  
がご覧いただけます。

<http://www.nichidai.jp/>

証券コード6467

**株式会社 ニチダイ**  
NICHIDAI CORPORATION

# ニチダイグループは「他社の追随を許さない高い技術力」をコアに、3つの事業を展開しています。

## 金型事業 Forging Die Business

精密鍛造金型の開発・生産・販売。

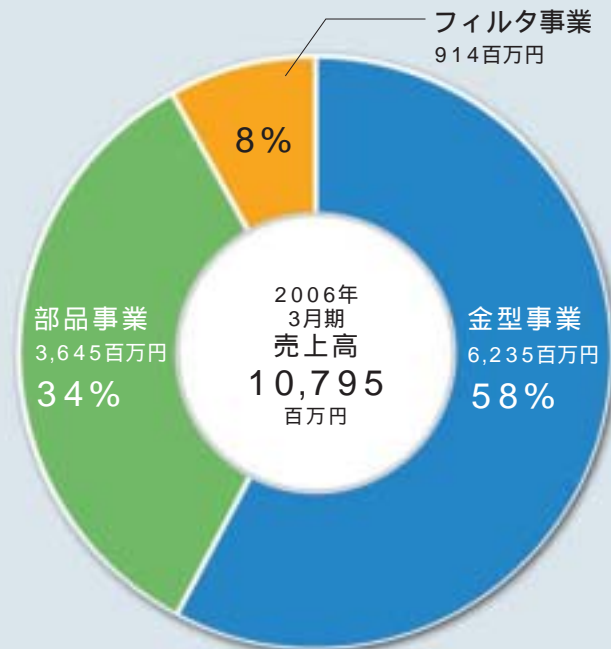
➤ 自動車部品成形用の精密鍛造金型のトップメーカー。  
「精密鍛造」とは、熱を加えることなく、金属素材をプレス機などで圧力を加え、複雑な形状の部品を成形する加工法\*です。生産のスピードアップが図れるため、高精度・高強度が要求される大量生産部品の加工に適し、主にエンジン、トランスミッション、駆動系などの自動車部品成形に使用されています。  
ニチダイの生産する精密鍛造金型は、国内外の多くの自動車部品メーカーで用いられています。

➤ 理想の加工技術「ネットシェイプ」を追求。  
ニチダイは、削ることなく、熱を加えずに、複雑な形状の部品を一発で成形する理想の加工法「ネットシェイプ」を追求しています。「ネットシェイプ」は、切削加工や熱間鍛造（熱を加えて加工を行う鍛造）と比較して、削らないため材料ロスが少ない 高精度の部品成形が可能 生産のスピードアップが図れる 高強度の部品成形が可能 などの優位性があり、省資源・省エネルギーに貢献します。

➤ 「精密鍛造技術」のトータルエンジニアリングサービスを提供。  
ニチダイは、金型の製造・販売にとどまらず、研究開発や金型設計段階から部品量産までトータルエンジニアリングサービスを提案・提供し、あらゆるニーズに対応することが可能です。また受託開発や共同開発にも積極的に取り組んでいます。ニチダイは精密鍛造技術開発力と金型技術総合力をコアに、トータルエンジニアリング力による「ネットシェイプの総合製造サービス」を目指しています。

\* 加工プロセスについては当社ホームページ  
(<http://www.nichidai.jp/>) の動画をご参照ください。

自動車部品の生産に使用される精密鍛造金型を供給する「金型事業」、精密鍛造品の量産と部品アセンブリを行う「部品事業」、あらゆる産業で用いられる高機能フィルタの開発・生産を担う「フィルタ事業」。ニチダイグループは独自の技術開発力をコアに、これら3つの事業を展開しています。



精密鍛造金型

## 部品事業 Components Business

独自生産技術によるアセンブリと精密鍛造品の生産。

➤ ディーゼルエンジン用VGターボチャージャー部品のアセンブリ——ディーゼル車の環境規制強化が背景。  
ニチダイは、ディーゼルエンジン用VGターボチャージャーに搭載される部品のアセンブリを2004年9月より開始しました。  
VGターボチャージャーは、ディーゼル車のPM・NOxの排出量を抑制するとともに、低トルク時におけるスムーズな走行を可能にします。環境規制が高まるなか、欧州における乗用車のディーゼル化率が50%近くまで高まっていることから、今後の成長が期待されています。



VGターボチャージャー部品

➤ 精密鍛造部品の生産——金型事業とのシナジーも推進。  
部品事業では、精密鍛造部品の生産も手がけています。カーエアコンのコンプレッサーに使用されるアルミ合金製のスクロール鍛造品を中心に、お客様からの要請により、自動車部品などの精密鍛造品の受託生産も行っております。  
また、部品事業で保有する鍛造の生産設備、蓄積された生産ノウハウは、金型事業における製品開発に活用され、シナジー効果を目指した事業展開を推進しています。



スクロール鍛造品



精密鍛造品

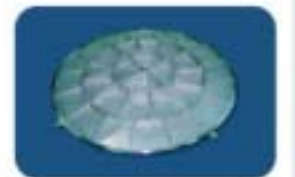
## フィルタ事業 Filter Business

積層焼結技術によりフィルタ構造の一体化を実現。

➤ 石油化学、医薬品、食品業界など多様な産業分野に使用される高機能フィルタ。  
ニチダイフィルタでは、独自に開発した積層焼結技術によって、何枚ものステレンス金網を各種各様に重ねて一体化した高機能フィルタを提供しています。石油化学、ガス、原子力などのエネルギー分野、繊維や液晶テレビ等のフィルム、プラスチックなどの化学分野、医薬品・食品分野のほか、H2Aロケットにも使用されるなど幅広く活用されています。  
ニチダイフィルタが提供する高機能フィルタは、ろ過精度、機械的強度、耐食性、耐熱性に優れているほか、洗浄により再利用を可能にする特長もっています。



各種液体ろ過用フィルタ



医薬品ろ過用フィルタ



ポリマーろ過用フィルタ

5層構造のポアメット  
0.3～200ミクロンという幅広い過精度に対応。  
機械的強度、耐食性、耐熱性に優れる。

## 中期経営計画の初年度を終了。売上高は初の100億円台を記録し目標を達成しましたが、収益面で一部課題を残しました。



代表取締役社長 古屋 元伸  
(ふるや もとのぶ)

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。当連結会計年度における当社の業績および2005年4月策定の中期経営計画の進捗状況についてご説明いたします。

### ▶ 部品事業の成長により事業構成が大きく変化

当連結会計年度における連結売上高は107億9千5百万円(前期比21.4%増)と創立以来はじめて100億円台を記録しました。一方、収益面においては、経常利益ベースで8億2百万円(前期比3.6%減)と減益となりました。

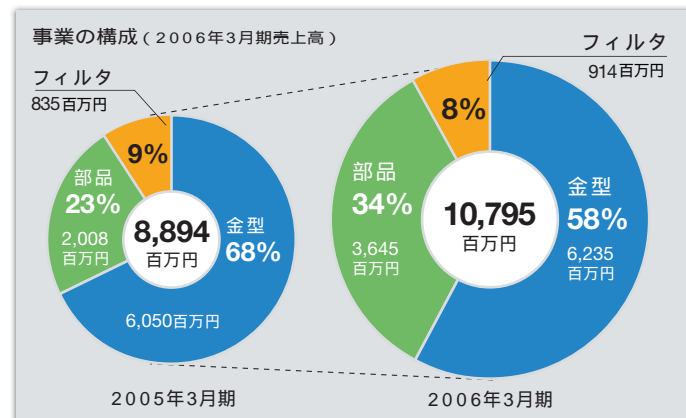
当期における最も大きな成果は、部品事業におけるディーゼルエンジン用VGターボチャージャー部品の本格的な量産開始です。この新事業稼働により、部品事業の売上高構成比が前年の23%から34%に大きく伸張しました。部品事業以外の金型事業およびフィルタ事業ともに増収を記録した中での構成比率の伸びであり、事業構成が大きく変化したことをお分かりいただけるかと思います。

しかし、部品事業においては、収益面で課題を残す結果となり

ました。VGターボチャージャー部品の実用化段階における設計変更および規格の見直し等により設計変更前等の部品が使用できなくなり、部品を廃却処分する必要が生じたことから、部品事業としては、営業利益ベースで7千8百万円にとどまり、急速な立ち上がりの反動が出た結果となりました。全社における増収・減益は、この影響のためです。

一方、金型事業およびフィルタ事業においては、それぞれ増収・増益を記録することができました。金型事業では、欧州向けの金型売上が中間時予想に届かなかったものの、タイ地域における日系メーカーの現地生産用金型売上の増加や、中国、韓国の現地企業向けの金型売上が好調だったことから、海外向け売上高が伸びました。また収益面においても、材料高騰など厳しい側面はあったものの、ニチダイアメリカ(以下、NACという)の赤字幅減少により同等の収益率となり、増収となりました。

また、フィルタ事業においては、底堅い景気回復を背景に設備投資増の好環境にあったことに加えて、液晶、プラズマなどの薄型テレビに代表されるデジタル機器用フィルム生産設備用のフィルタが大きく伸びたことや、石油掘削用のフィルタの売上が増加したことから、売上高は9億1千4百万円(前期比9.5%増)となりました。



### ▶ 成長のための次期の課題と戦略

中期経営計画の初年度を終了し、計画の柱とする「金型事業のグローバル展開」「部品事業の成長戦略」それぞれにおける課題も明確になる中、次期はその克服が肝要と考えております。

まず、金型事業においては、グローバル戦略をより積極的に展開させていきます。国内の自動車メーカーが引き続き海外生産を増加させる中、当社も引き続きその路線に対応していく予定です。アジアを中心とした海外売上高は8億9千万円(前期比17.2%増)と成長が見込まれ、その達成のために、設計・営業技術からの支援を強化してまいります。また、北米におけるNACについては、業績好調な日系メーカー向けの営業強化を図り、通年黒字化の体制を目指します。

部品事業においては、今期同様、欧州における環境規制を背景にしたVGターボチャージャー部品の生産増およびそれに伴う売上増が見込まれます。そのため、生産管理、技術、品質管理に関する組織強化を図るとともに、コンピューターによる在庫管理も強化し、生産、売上、利益を増加させてまいります。

	2005年3月期	2006年3月期		2007年3月期		
	実績	中間時予想	実績	伸び率	予想	伸び率
<b>単独</b>						
売上高	7,857	9,320	9,758	24.2%	10,400	6.6%
経常利益	953	995	803	15.7%	1,000	24.5%
<b>ニチダイフィルタ</b>						
売上高	835	900	914	9.5%	1,000	9.4%
経常利益	93	95	119	28.0%	100	16.1%
<b>ニチダイアメリカ</b>						
売上高	402	480	498	23.6%	600	20.5%
経常利益	217	90	92	-	20	-
<b>連結</b>						
売上高	8,894	10,400	10,795	21.4%	11,650	7.9%
売上総利益	2,480	2,740	2,498	0.7%	2,926	17.1%
販売管理費	1,589	1,690	1,612	1.5%	1,712	6.2%
営業利益	891	1,050	885	0.7%	1,214	37.1%
営業外損益	58	50	82	-	94	-
経常利益	832	1,000	802	3.6%	1,120	39.5%
当期純利益	355	475	369	3.8%	667	80.8%

\* 百万円未満は切り捨て。

また、フィルタ事業においては、薄型テレビや携帯電話などに使用されるフィルム生産設備向けと、石油価格高騰に伴う石油掘削用の需要増が見込まれるため、それを取り込むことにより、10億円の売上高を目指します。

### ▶ 中期経営計画を引き続き推進

以上の結果、次期の売上高は、中期経営計画の目標を超える116億5千万円、経常利益は11億2千万円を見込んでおります。売上高における事業構成が、中期経営計画策定時と変容するため、若干、経常利益が下ぶれますが、引き続き「成長と変化」をキーワードにした路線を力強く進めてまいります。

当社グループは、中期経営計画達成のために、次期以降も継続的に技術開発とグローバル化を推進していく所存です。今後とも当社グループにご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2006年6月

代表取締役社長 古屋 元伸

	2006年3月期		2007年3月期		2008年3月期
	中経計画	実績	中経計画	予想	中経計画
<b>売上高</b>	<b>10,400</b>	<b>10,795</b>	<b>11,500</b>	<b>11,650</b>	<b>12,700</b>
金型	6,400	6,235	6,900	6,650	7,300
部品	3,100	3,645	3,600	4,000	4,300
フィルタ	900	914	1,000	1,000	1,100
<b>経常利益</b>	<b>1,000</b>	<b>802</b>	<b>1,250</b>	<b>1,120</b>	<b>1,420</b>
<b>当期純利益</b>	<b>475</b>	<b>369</b>	<b>700</b>	<b>667</b>	<b>820</b>
<b>株主資本</b>	<b>4,985</b>	<b>4,904</b>	<b>5,670</b>	<b>5,454</b>	<b>6,300</b>
<b>総資本</b>	<b>11,000</b>	<b>11,277</b>	<b>11,600</b>	<b>11,300</b>	<b>12,100</b>
<b>売上高経常利益率</b>	<b>9.6%</b>	<b>7.4%</b>	<b>10.9%</b>	<b>9.6%</b>	<b>11.2%</b>
<b>R O E</b>	<b>9.9%</b>	<b>7.8%</b>	<b>13.1%</b>	<b>12.9%</b>	<b>13.7%</b>
<b>R O A</b>	<b>4.4%</b>	<b>3.4%</b>	<b>6.2%</b>	<b>5.9%</b>	<b>6.9%</b>

\* 百万円未満は切り捨て。

## ニチダイアメリカの現状とビジョン 生産体制の変革による生産効率アップを推進



ニチダイアメリカ  
コーポレーション  
社長  
**西村 譲**  
(にしむら ゆずる)

北米事業を担当するニチダイアメリカ(以下、NACという)の当期の売上高は4億9千8百万円、経常損失は9千2百万円となりました。これは、前期と比較すると1億2千5百万円の赤字幅の減少です。日本人主導からアメリカ人主導による生産体制へとアメリカ工場を切り替える中で、ニチダイで受注した特定のユーザー向け金型をOEM生産させることにより、習熟率を高めるとともに、稼働率を高めることが出来、下半期では初めて黒字化を達成しました。

現在、北米における市場変化は激しいものがあり、NACにとって次期は、営業面および生産面双方において大きな転換期になるものと考えます。こうした環境変化を踏まえ、次のような施策を実行することにより、次期は設立以来初の通年黒字化を目指してまいります。

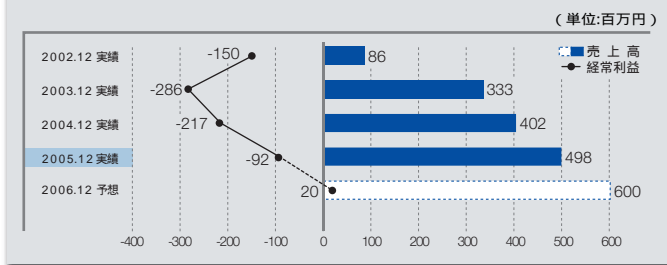
まずは、営業面において、日系メーカーへのアプローチを強化します。米系自動車メーカーは業績が低迷していることから、新車開発ならびに部品開発が減少しており、関連する自動車部品業界への影響も甚大なものがあります。NACも例外ではなく、設立当初に想定していた米系メーカーへの拡販については計画未達となっております。次期は販売戦略を見直し、業績好調で、参入機会も多い日系メーカーへの営業を強化していきます。そのため米系自動車部品メーカー向けに設置していたミシガン州デトロイトの営業所を閉鎖し、日系メーカーに近いオハイオ州に移転することといたしました。

また、生産面においては、ニチダイに北米支援室を設置し、生産技術面へのバックアップ体制をより強化していくことで、北米における生産増に備えてまいります。

以上の施策を遂行することにより、次期は売上高で6億円、経常利益は2千万円を見込んでおります。

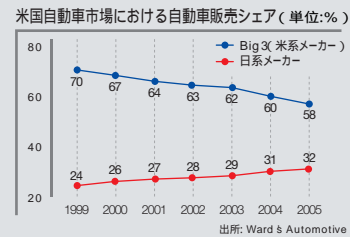
今後も、NACはニチダイグループにおける北米地域市場開拓とグローバル展開の先鋒を担っていく所存であります。

NACの実績の推移と予想 (NACは12月決算です)



北米における自動車産業

米国自動車市場においては、日系自動車メーカーの販売シェアの拡大が続いており、生産台数に関する増加傾向が続いています。このような傾向は自動車部品メーカーにも影響しており、日系の部品メーカーのシェア拡大も続いていると想定されます。



## コーポレート・ガバナンス

2006年5月に当社が「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」を提出しています。ここでは、その内容の一部を要約して報告します。

### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

コーポレート・ガバナンスの重要性については、当社といたしましても十分に認識しており、経営の透明性・公正性・迅速な意思決定の維持・向上に努めるべく諸施策に取り組んでおります。また、情報開示を重要視しており、早期の決算発表及び株主、投資家の皆様に対するIR活動を積極的に進めており、年2回の決算説明会及び適時に個人投資家説明会を開催するなど、積極的な情報発信に努めております。

### 業務執行、監査の状況

#### 1 業務執行の状況

当社の取締役会は取締役6名で構成しており、迅速に経営判断できるよう少人数で経営しております。取締役会は毎月1回開催しており、重要事項はすべて付議され経営としての意思決定を行うとともに、業績の進捗についても議論し対策等を検討しております。

取締役及び監査役と、各部門の長であるゼネラルマネージャー2名を含めた経営会議を毎月1回開催しており、各部門から内部管理やリスク管理に係る事項も含めた現状報告が行われ、業務執行上の課題について討議のうえ具体的対策等を決定しております。

子会社のニチダイフィルタ(株)は取締役3名、NICHIDAI AMERICA CORPORATIONについては取締役4名で経営されており、財務データだけでなく内部管理やリスク管理に係る事項も含め必要な情報は全て親会社である当社に報告され、随時モニタリングできる体制が確立されております。

#### 2 監査の状況

当社では、監査役制度を採用しており、監査役は3名(うち社外

監査役2名)となっております。常勤監査役が中心となり、取締役会のほか重要会議に積極的に参加するとともに監査役会を定期的に開催し、取締役の職務執行について、厳正な監視を行っております。社外監査役2名については、1名が公認会計士、もう1名が弁護士であり、会計的視点および法律的視点から適宜経営に関する意見や助言を入手しております。

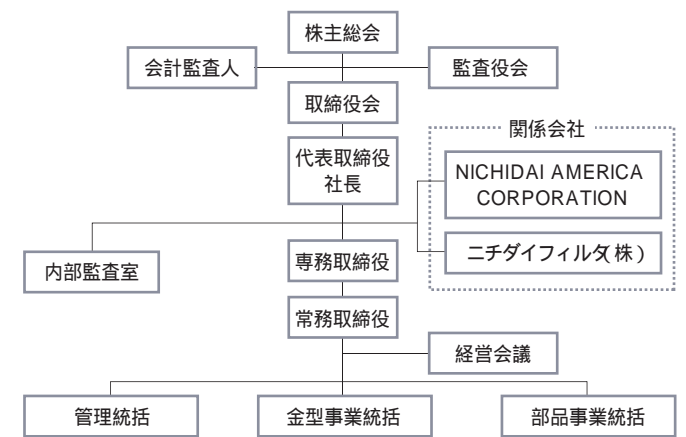
また、会社業務の適正な運営・不正過誤の防止及び業務改善・能率向上を図る目的で社長直轄の内部監査室が設置されており、各部署の内部監査を継続的に実施しております。

### 3 コーポレートガバナンスの充実にに向けた取り組みの最近1年間の実施状況

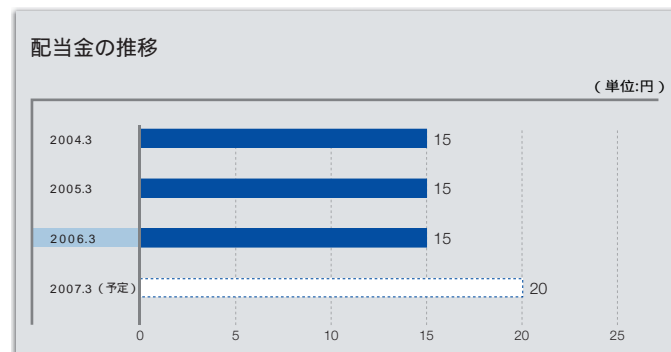
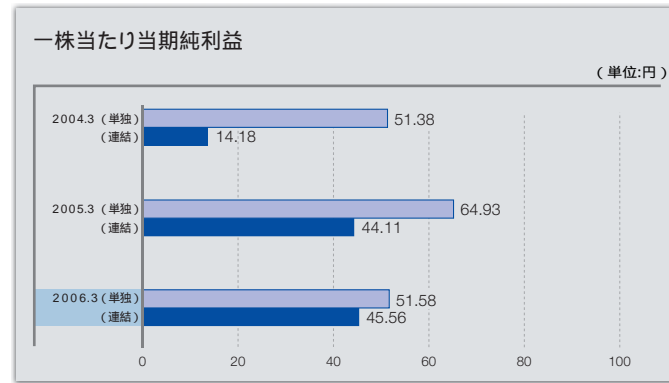
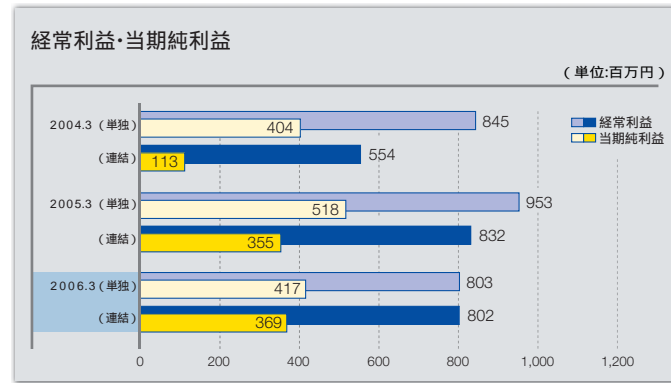
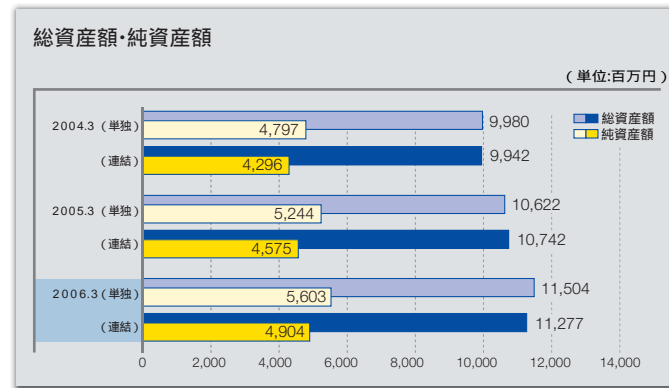
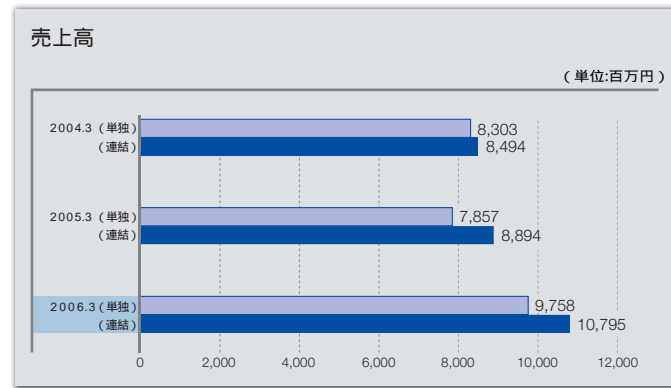
最近1年間における内部管理体制の充実にに向けた取り組みとしては、管理部門に取締役管理統括を配するとともに、総務・経理・経営企画・広報・システムグループの連携を深め、IR活動の改善・強化、コンプライアンスに係る管理の強化を行っております。

### 模式図

当社の内部管理体制の模式図は、次のとおりです。



## 決算ハイライト



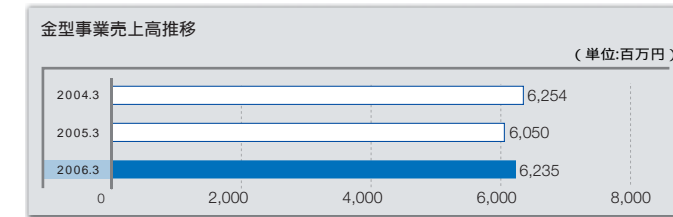
### ▶ 配当について

2007年3月期の期末配当金については、1株につき15円の普通配当金に当社の創立40周年記念配当金5円を加えた、合計20円を予定しています。

## 各事業の実績

### ▶ 金型事業

北米における米系自動車部品メーカーへの売上および欧州向けの金型売上が伸び悩みましたが、国内およびアジアではほぼ計画どおりの売上高を達成できました。また、金型材料の大幅な値上げがありましたが、ニチダイアメリカの下半期黒字化による赤字幅の減少により、営業利益が増益となりました。



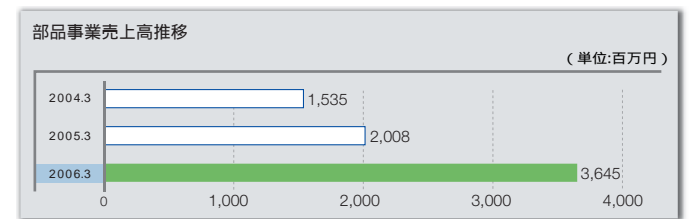
### ▶ 部品事業

本格的に量産を開始したディーゼルエンジン用VGターボチャージャー部品の採用車種の増加等があり、売上高が大幅に増加しました。しかし、急激な量産立上げにより実用化段階において、改良および一部設計変更すべき事象が発生したことや、規格見直しがあったことから、部品の一部を廃却処分する必要が発生し、営業利益は減益となりました。

部門別売上高の状況 (単位:百万円)

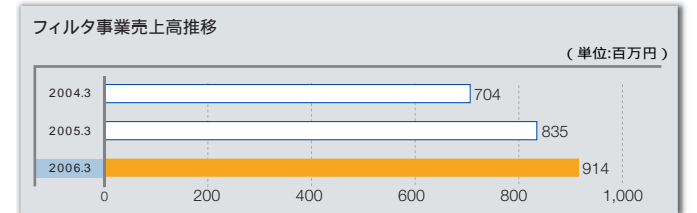
	2005年3月期	2006年3月期		
	実績	中間時予想	実績	伸び率
国内	5,153	5,370	5,353	3.9%
海外	695	850	759	9.2%
ニチダイアメリカ	402	480	498	23.6%
連結消去	(201)	(300)	(375)	(86.5%)
金型	6,050	6,400	6,235	3.1%
(うち商品)	(136)	(80)	(190)	(39.6%)
部品	2,008	3,100	3,645	81.5%
フィルタ	835	900	914	9.5%
連結	8,894	10,400	10,795	21.4%

\* 百万円未満は切り捨て。



### ▶ フィルタ事業

医薬品関係を主とした欧州向けのフィルタと、石油掘削用のフィルタが好調だったこと、プラズマテレビ・液晶テレビ用フィルムの生産設備向けフィルタの売上が増加したことから、増収増益となりました。



事業別損益 (単位:百万円)

	2005年3月期実績			2006年3月期実績		
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率
金型	6,050	656	10.9%	6,235	682	11.0%
部品	2,008	137	6.8%	3,645	78	2.2%
フィルタ	835	97	11.7%	914	124	13.6%
連結計	8,894	891	10.0%	10,795	885	8.2%

● 材料の値上げがあったものの、NAC赤字幅の減少。  
● 実用化段階において設計変更および規格の見直しが生じ、部品の廃却処分が発生したことによる。  
● 売上増による、収益額アップ。

\* 百万円未満は切り捨て。

## 主要連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

資産の部 科目	前期	当期
	2005年3月31日現在	2006年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	860	835
1 受取手形及び売掛金	2,869	2,989
2 たな卸資産	859	1,218
その他	99	98
貸倒引当金	36	39
流動資産計	<b>4,651</b>	<b>5,103</b>
固定資産		
有形固定資産	5,694	5,745
無形固定資産	48	57
投資その他の資産	347	371
固定資産計	<b>6,090</b>	<b>6,174</b>
資産合計	<b>10,742</b>	<b>11,277</b>

\* 百万円未満は切り捨て。

負債および資本の部 (単位:百万円)

負債および資本の部 科目	前期	当期
	2005年3月31日現在	2006年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債		
買掛金	581	654
3 短期借入金	492	1,180
一年以内に返済予定の長期借入金	848	944
一年以内に償還予定の社債	20	20
未払法人税等	288	166
賞与引当金	110	116
4 その他	612	370
流動負債計	<b>2,953</b>	<b>3,452</b>
固定負債		
社債	2,070	2,050
長期借入金	1,075	820
退職給付引当金	67	49
固定負債計	<b>3,213</b>	<b>2,920</b>
負債合計	<b>6,167</b>	<b>6,372</b>
(資本の部)		
5 資本金	831	860
資本剰余金	595	624
利益剰余金	3,189	3,429
為替換算調整勘定	49	31
その他	8	22
資本計	<b>4,575</b>	<b>4,904</b>
負債・資本合計	<b>10,742</b>	<b>11,277</b>

\* 百万円未満は切り捨て。

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	前期	当期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高	8,894	10,795
6 売上原価	6,414	8,297
売上総利益	2,480	2,498
販売費及び一般管理費	1,589	1,612
営業利益	891	885
営業外収益	45	29
営業外費用	104	112
経常利益	832	802
特別利益	2	16
特別損失	48	82
税金等調整前当期純利益	786	737
法人税、住民税及び事業税	446	384
法人税等調整額	15	15
当期純利益	355	369

\* 百万円未満は切り捨て。

連結剰余金計算書 (単位:百万円)

科目	前期	当期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	573	595
資本剰余金増加高		
増資による新株の発行	21	28
資本剰余金期末残高	<b>595</b>	<b>624</b>
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	2,954	3,189
利益剰余金増加高		
当期純利益	355	369
利益剰余金減少高		
配当金	117	118
役員賞与	3	10
利益剰余金期末残高	<b>3,189</b>	<b>3,429</b>

\* 百万円未満は切り捨て。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	前期	当期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2005年4月1日から 2006年3月31日まで
7 営業活動によるキャッシュ・フロー	405	398
8 投資活動によるキャッシュ・フロー	419	840
9 財務活動によるキャッシュ・フロー	22	424
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	7
現金及び現金同等物の増減額(減少額)	36	24
現金及び現金同等物の期首残高	447	410
現金及び現金同等物の期末残高	410	385

\* 百万円未満は切り捨て。

### Check Point

- 1 受取手形及び売掛金の増加  
売掛金の増加は、VGターボチャージャー部品の売上増によるものです。
- 2 たな卸資産の増加  
たな卸資産の増加は、VGターボチャージャー部品生産増によるものです。

- 3 短期借入金の増加  
短期借入金の増加は、運転資金の増加によるものです。
- 4 その他(流動負債)の減少  
その他(流動負債)の減少は、設備未払金の減少によるものです。
- 5 資本金および資本剰余金の増加  
資本金および資本剰余金の増加は、ストックオプションの権利行使によるものです。

### Check Point

- 6 売上原価の増加  
金型事業:金型の材料の高騰によるものです。  
部品事業:VGターボチャージャー部品生産増による、材料・外注加工費の増加と、VGターボチャージャー部品の実用化段階において、設計変更および規格の見直しが生じ、部品の廃却処分が発生したことによるものです。

- 7 営業活動によるキャッシュ・フロー  
VGターボチャージャー部品の量産による売上債権の増加及びたな卸資産の増加によるものです。
- 8 投資活動によるキャッシュ・フロー  
生産設備増強など有形固定資産の取得によるものです。
- 9 財務活動によるキャッシュ・フロー  
短期借入金の増加によるものです。

# TOPICS

## 新任取締役をご紹介します



新任取締役

平岩 益夫

平成15年4月 当社入社

平成15年4月 当社管理統括付

平成16年4月 ニチダイフィルタ株式会社  
取締役副社長

平成17年5月 ニチダイフィルタ株式会社  
代表取締役社長(現任)

## 第4回国際精密鍛造セミナー開催

2006年3月21日から24日にかけて、第4回国際精密鍛造セミナー(ISPF)が奈良で開催されました。当セミナーでは、鍛造関連の研究発表が2日間にわたり行われた後、最終日に当社の工場見学会およびフェアウェルパーティーが催されました。

世界各国から研究者が集う国際色豊かなこのセミナーは、当社前社長田中善昭の「精密鍛造技術の発展のために貢献したい」との思いから始まったもので、1996年の第1回セミナー開催以降、今回で4回目となり、10年の歴史を数えることとなりました。



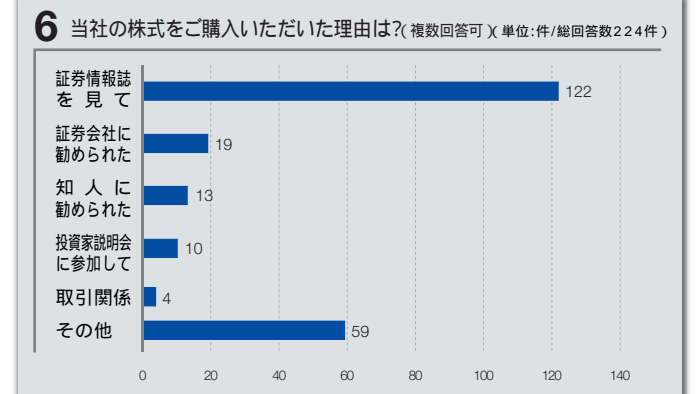
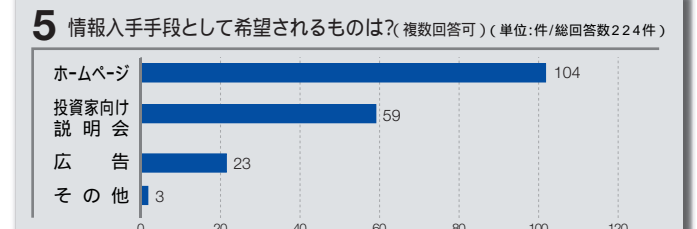
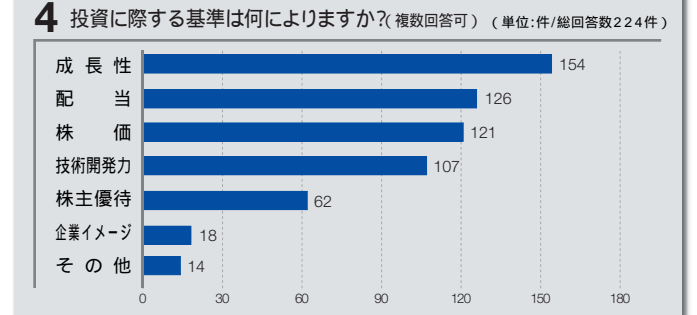
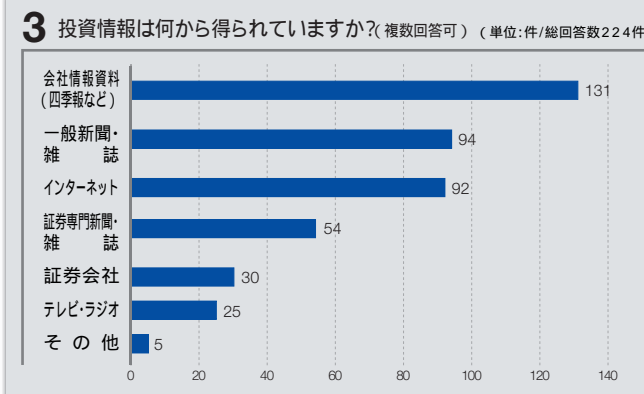
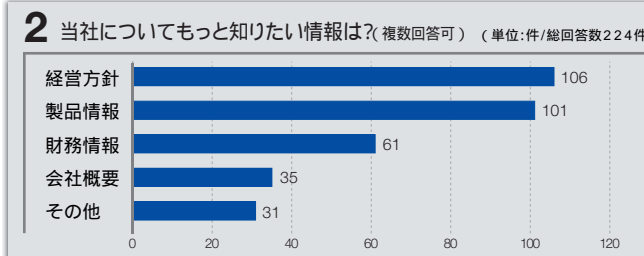
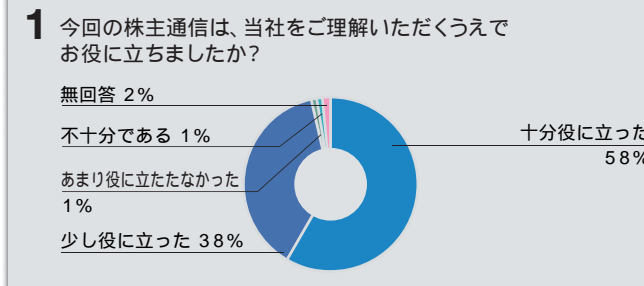
当社概要の  
プレゼンテーション



参加者集合写真

## 株主様アンケート結果

株主通信vol.8において実施させていただきました株主様へのアンケート結果をご報告します。皆様からの貴重なご意見は、今後のIR活動の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

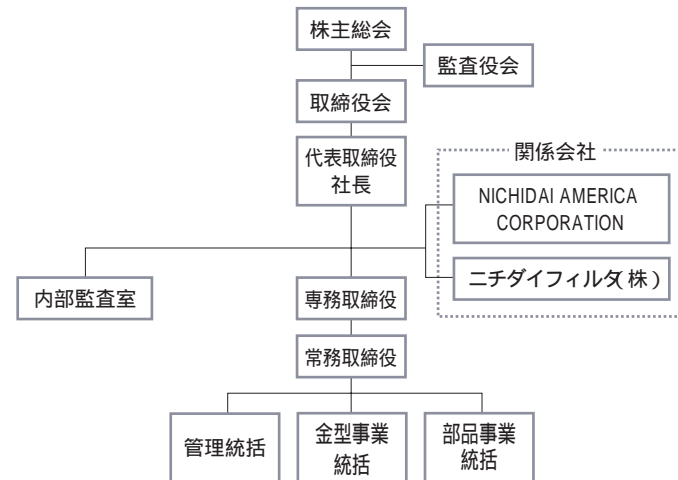


## 会社概要

### 会社概要(2006年6月26日現在)

社名 株式会社ニチダイ  
 (英文表記) NICHIDAI CORPORATION  
 証券コード 6467  
 本社所在地 京都府京田辺市新北町田13  
 創業年月日 1959年5月5日  
 設立年月日 1967年5月1日  
 資本金 8億6,019万円  
 事業内容 精密金型の開発・製造・販売  
 精密鍛造品およびその関連する成形品の開発・製造・販売  
 各種ろ過装置および金属ろ過材料の開発・製造・販売  
 各種焼結金属の開発・製造・販売  
 精密部品の組立および開発・製造・販売

### 組織図(2006年4月1日現在)



### 事業所(2006年4月1日現在)

本社 京都府京田辺市新北町田13  
 宇治田原工場 京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14  
 熊谷営業所 埼玉県熊谷市桜木町2丁目88番  
 浜松営業所 静岡県浜松市高丘西1-10-20  
 名古屋営業所 名古屋市千種区桜が丘295 第8オオタビル  
 京都営業所 京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14  
 富山出張所 富山県富山市本郷町234-3椎ノ木台 104号室  
 岡山営業所 岡山県岡山市辰巳22-103 TCKビル  
 熊本出張所 熊本県熊本市長嶺南1丁目1番7号  
 上海事務所 中国上海市婁山関路55号新虹橋大廈604室

### 役員(2006年6月26日現在)

代表取締役社長 古屋元伸  
 専務取締役 西村 讓 (NICHIDAI AMERICA CORPORATION 社長)  
 常務取締役 藤本光洋  
 取締役 瀬川秀実 (管理統括)  
 取締役 島崎 定 (部品事業統括)  
 取締役 畑中恵二 (金型事業統括)  
 取締役 平岩益夫 (ニチダイフィルタ社長)  
 監査役(常勤) 萩野雅章  
 監査役 小原正敏  
 監査役 堤 昌彦

### 関連会社(2006年4月1日現在)

ニチダイフィルタ株式会社  
 京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14  
 NICHIDAI AMERICA CORPORATION  
 (Kentucky) 1030 Fortune Drive Richmond,  
 KY 40475, USA  
 (Ohio) 15630 E State Route 12 Unit 4, Findlay,  
 OH, 45840-9743, USA

## 株式情報 (2006年3月31日現在)

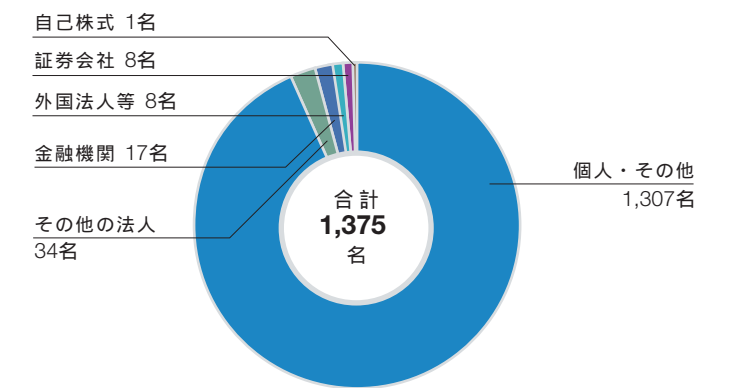
### 株式の状況

会社が発行する株式の総数	15,500,000株
発行済株式の総数	7,998,800株
1単元の株式数	100株
株主数	1,375名

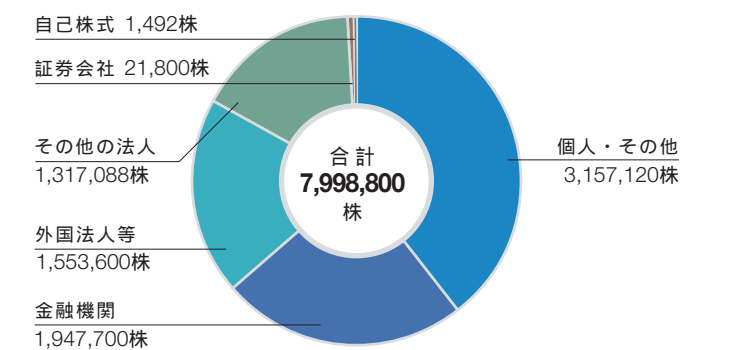
### 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
有限会社ジャスト	885,600	11.07%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	651,000	8.14%
田中善昭	572,092	7.15%
クレディエットバンクエスエイルクセンブルジョワーズシリウスファンドジャパンオパチュニティズサブファンド	500,000	6.25%
エイチエスピーシーバンクビーエルシーアカウントアトランティスジャパングロスファンド	475,000	5.94%
ニチダイ従業員持株会	312,244	3.90%
田中克尚	307,036	3.84%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	261,100	3.26%
株式会社三菱東京UFJ銀行	217,600	2.72%
大阪中小企業投資育成株式会社	174,000	2.17%

### 所有者別分布



### 所有者別株式数分布



### アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまのご満足を追求し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいります。  
 この株主通信に対するご感想、ご意見をお寄せください。  
 つきましては同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函頂きますようお願いいたします。  
 今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。